



道

みちもり

守

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.9 春号



巻頭随想

**追い山の道** 長谷川 法世

特集 シーニックバイウェイ

**日本風景街道** (シーニックバイウェイジャパン)  
モデルルート20地域を全国から選定へ  
九州は道守が原動力、各地で機運高まる

道守会議の輪

鹿児島&熊本&佐賀、大川&柳川…  
地域をつなぐ道守交流、活動が盛んに

[街道を行く]

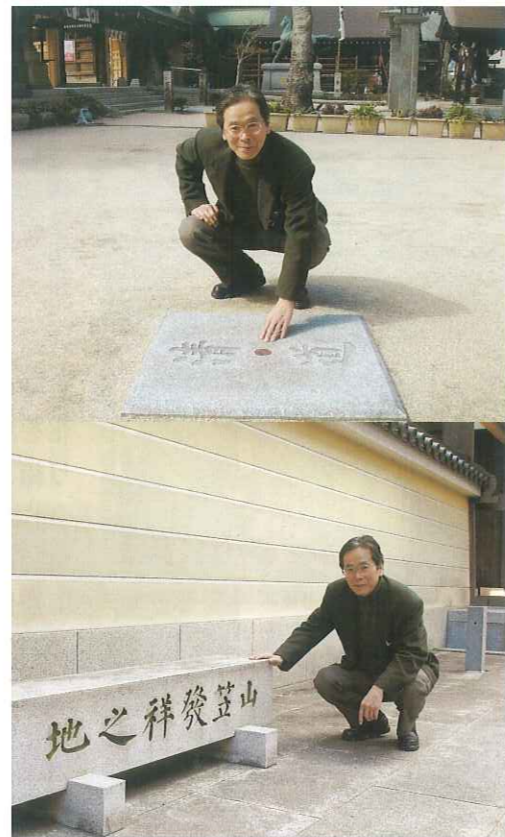
去川往還・日向の国の薩摩街道

博多生まれの私にとって、道といえば博多祇園山笠の順路、それも「追い山」の順路につきる。毎年7月1日から2週間催行される山笠の最終行事追い山は、総鎮守榑田神社から廻り止めまで博多全域にわたる5キロのコース。普段は変哲のない生活道路である道が、この時はハレの舞台・神聖なる道と変貌し、男たちはその年最後の山を、また、一生続く山笠人生の一度限りの山を全力で走り抜ける。

閑話休題。横道にそれるが、「博多町家」ふるさと館は開館10年の歴史資料館で、私は館長を勤めている。昨年、「懐かしの博多アルバム散歩」という写真展を開催した。住民のアルバムから選んだ写真を拡大し、その家に掲示してもらって、散歩しながら博多の歴史をたどるという企画だった。山笠をはじめ未発表の写真が多数提出され、写真資料の散逸防止にも役立った。同時に、各家庭の説明を受けながら約2時間の散歩は、天正15年太閤町割り以来の狭い道路に車のあふれる現状にあって、「道」が単に生活利便のためだけでなく、人々の人生そのもののためにあるという本来の目的を再認識するきっかけにもなったのではと思う。

アルバム散歩は今年も開催の予定だが、同じような企画として追い山コースでの博多山笠資料展も近い将来ぜひ実現したい。

追いの道の



古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起し、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在―子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろうか。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音；心地よい広場の役目や「公共」を失ってしまったのだろうか。

私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組み人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりだした。道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに―。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渇きを潤す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、一歩踏み出そう。

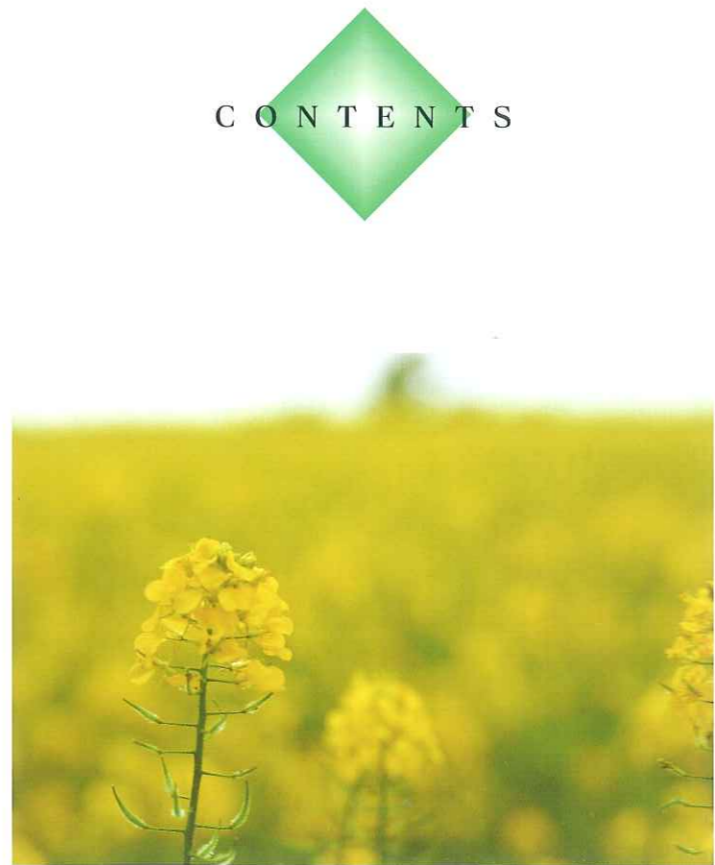
道守九州会議  
設立趣旨

巻頭随想

長谷川法世

プロフィール

漫画家、小説家、エッセイスト。連続執筆した「博多っ子純情」で地元気質、祭りなどを紹介し、博多ブームに火を点けた。愛郷心が強く、山笠は土居流れて毎年参加。テレビのコマーシャル出演や新聞のエッセイ執筆など幅広く活躍中。



CONTENTS

- 1 巻頭随想「追いの道」 長谷川 法世
- 2 特集 シーニックバイウェイ  
日本風景街道(シーニックバイウェイジャパン)モデルルート20地域を全国から選定へ九州は道守が原動力、各地で機運高まる
- 5 「とるば」全国展開スタート！九州とるば第2回フォトコンテスト結果速報
- 6 道守会議の輪…鹿児島&熊本&佐賀、大川&柳川…地域をつなぐ道守交流、活動が盛んに
- 8 わたしの好きな道  
蓮の葉が広がる堀端、城跡の景色 都会の喧噪を忘れる福岡城堀の道 大貝知子
- 9 「私たちの道守活動」紹介
- 12 土木遺産 …… 山田の凱旋門 (鹿児島県始良町)
- 13 街道を行く…去川往還・日向の国の薩摩街道
- 14 海外道事情 ドイツ  
自転車「先進地」ハノーバー市 全長530キロの専用道 無料駐輪施設は5000カ所
- 15 ご存知ですか？  
道路の走りやすさマップ 九州全域データ無償提供を開始 道守九州会議交流会2005の意見・課題からアクションプログラムを策定
- 16 道守たちのトピックス／人物伝
- 17 道守九州会議会員募集中／お知らせ

表紙画:久富 正美  
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

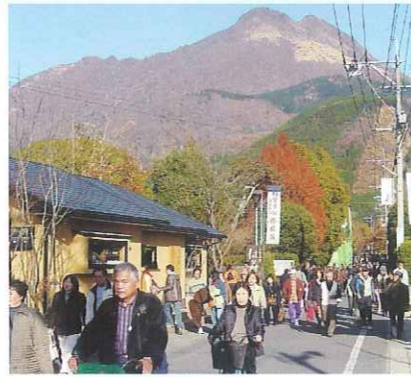
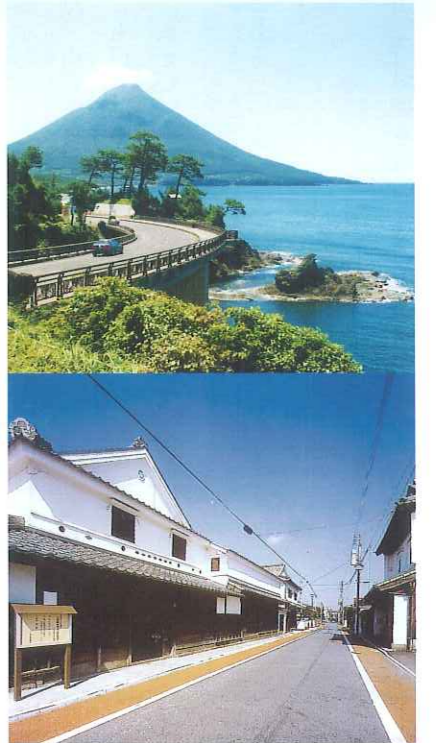
# 美しい道路景観を活かした地域づくり

## 日本風景街道(シーニックバイウェイジャパン)モデルルート20地域を全国から選定へ

### 九州は道守が原動力、各地で機運高まる

美しい道路景観づくりを通じて地域の活性化を目指す「シーニックバイウェイ」への取り組みが全国へ広がっている。昨年12月に「日本風景街道(シーニックバイウェイジャパン)戦略会議」が東京で発足。1月より全国からモデルルートの公募(応募期間:1月20~3月31日)を開始した。

九州では道守九州会議と国土交通省九州地方整備局が連携し、昨年2月に「シーニックバイウェイ九州・研究会」を発足、研究活動や情報発信等を行ってきた。今回のモデルルート公募でも各地で勉強会が開催されるなど、九州でのシーニックバイウェイ導入に向けた動きが一気に加速した。



## シーニックバイウェイジャパン 戦略会議発足でモデル公募 "道守"に注目集まる

我が国のシーニックバイウェイを推進する組織として「日本風景街道(シーニックバイウェイジャパン)戦略会議」(国土交通省主催)が設立され、昨年12月7日、東京都内で初会合が行われた。日本経団連の奥田碩会長を委員長に、九州からは道守九州会議の玉川孝道副代表世話人が唯一の地方委員として参加。地域づくりのために道路空間をどう生かすかについて話し合われた。



第1回日本風景街道戦略会議の様子

奥田委員長は「速く多くという効率重視の道づくりから、自然や歴史、文化の調和した地域のための新しい仕組みを検討してほしい」とあいさつ。玉川副代表世話人は、地域の道路で清掃などを行う「道守」の活動を紹介しながら「訪れる人の期待をくみ取る幅広い政策が必要」と述べた。

同戦略会議では、1月より全国からモデルルートの公募を開始(3月31日締切)。4月以降、20程度のモデルルートの選考を予定している。

### シーニックバイウェイとは?

シーニックは景色、バイウェイは脇道・寄り道の意味で、米国で1989年から新しい観光施策としてスタートした。行政・住民・利用者・NPO・企業などが一体となって沿道景観や自然・文化財・歴史保全などに取り組む。日本では、2003年から北海道で試みが始まり、3つの指定ルート及び2つの候補ルートにおいて環境保全や地域づくり、観光振興など多彩な活動を連携しながら進めている。



日本風景街道ホームページ  
<http://www.hido.or.jp/fukeikaidou/index.html>

### シーニックバイウェイ九州

## 道守会議、各地で学習会開催 地域の意識づくりを支援

九州でのシーニックバイウェイへの取り組みは、2004年9月に福岡市で開催された「観光振興と道路シンポジウム」(国土交通省九州地方整備局、道守九州会議主催)が発端。米国と北海道の先行事例が紹介され、反響と関心が一気に高まった。昨年2月には「シーニックバイウェイ九州・研究会」を発足。経済、旅行、報道、地域活動、行政分野等の関係者が集まり、シーニックバイウェイ発祥の地・アメリカや日



本で先行している北海道の取り組みなどを学びながら、それぞれの立場から意見交換を重ねてきた。

今回の日本風景街道モデルルート公募を受け、道守九州及び各県会議では九州地方整備局等と協働し、「美しい道筋創出を生かした地域づくり(シーニックバイウェイ学習会)」などの勉強会を各地で開催。九州地域でのモデルルート応募を後押しした。



九州のシーニックバイウェイに関する主な動き	
2004年	「観光振興と道路」シンポジウム (9月17日/福岡市)
2005年	シーニックバイウェイ九州・研究会発足 (2月3日/福岡市)
2006年	日本風景街道戦略会議発足 (12月7日/東京) ※玉川孝道・道守九州会議副代表世話人が唯一地方からの構成委員
2006年	日本風景街道モデルルート公募開始 (1月20日)

### 一般説明会に160人 モデル公募に高い関心



国土交通省主催による日本風景街道説明会が2月15日に福岡市で開かれ、一般及び九州各地の道守会員、道路行政関係者ら約160人が参加した。

九州地方整備局の吉崎取道道路部長が「道の風景再生への取組」と題して報告。国土交通省道路局の横田敏幸沿道環境専門官が「日本風景街道」の趣旨、応募要領などを説明した。九州各地でモデルルート指定を目指した動きが高まる中、参加者からは指定後の行政支援内容や予算、他省庁事業との関連、「みちづくりパートナーシップ」と「まちづくり」の関係、モデルルートエリアについての質問等が飛び交い、関心の高さが見られた。

### シーニックバイウェイ 学習会レポート

道守九州及び各県会議では、九州各地でシーニックバイウェイに関する学習会等を開催。これらの模様を一部紹介します。

#### 1月11日 第3回宮崎シーニックバイウェイ勉強会(宮崎市)



積極的にシーニックバイウェイの意識づくりに取り組んできた道守みやざき会議。過去の参加者に加えて、「(仮称)日南海岸地域シーニックバイウェイ推進体」の構成候補となる日南地域自治体や道の駅から約20人が参加。宮崎県としての推進イメージや日南海岸地域を第1次シーニックバイウェイ推進地域とすることが提示された。

#### 1月13日 鹿児島・熊本シーニックバイウェイ合同学習会(鹿児島市)

鹿児島市で行われた鹿児島、熊本、佐賀の3県道守交流会の前に、鹿児島と熊本の道守ら約40人が合同で学習会を開催。各地域での推進や県境を越えたつながりへの展望が膨らんだ。(道守3県交流会については6ページに記載)



地域の魅力を発見、全国に発信!

「とるば」3/1から全国展開スタート!

3月1日より、「とるば(フォトスポット&パーキング)」の全国展開がはじまりました。全国各地の安全な駐車場と、そこから歩いて行ける撮影スポット情報を提供しています。北海道から沖縄までオリジナリティあふれるご当地「とるば」ホームページも開設。各地で「とるば」情報を募集・掲載しています。「全国版とるば」のホームページでは、日本全国の「とるば」情報の投稿受付を開始しています。ぜひご覧ください。

2004年12月から先行して「とるば」をスタートしている九州では、すでに約370カ所の情報をホームページで提供中。九州内の「とるば」情報の投稿は、「九州とるば」

のホームページからお寄せください。  
<http://www.torupa.com/>



とるば総合サイト  
<http://torupa.jp>  
※全国各地のとるばHPにリンクしています  
※携帯電話用 (<http://mobile.torupa.jp>)

九州とるば

第2回フォトコンテスト 応募総数359点

「スッキリ、ハッキリ、ドッキリ」がポイント

東島審査委員長

「九州とるば」の第2回フォトコンテストには、期間中(昨年3月1日~2月28日)写真数359作品、駐車場数のべ170箇所の投稿がありました。3月10日に第1次審査会が行われ、総勢17名の審査委員が入賞作品候補となる30作品を投票形式により選出。選考基準は「スッキリ(写真の全体の構図がスッキリしている)、ハッキリ(テーマがハッキリしている)、ドッキリ(驚きや新たな発見がある)」と東島治男審査委員長(社)日本



第一次審査会の状況

広告写真家協会九州支部。20日に最終審査が行われ、グランプリ・優秀賞をはじめ各賞が決定しました。受賞作品等の詳細は「九州とるば」ホームページ、道守通信10号(6月末発行予定)等で紹介していきます。



たくさんのご応募  
ありがとうございました。

※写真は応募作品の一例です

速報! グランプリに  
猪野さん(大分)

- |       |                        |
|-------|------------------------|
| グランプリ | 「岡城」猪野一男さん(大分県)        |
| 優秀賞   | 「蛇淵の滝(春)」三浦誠さん(福岡県)    |
| 優秀賞   | 「早春の池田湖」坂下裕幸さん(宮崎県)    |
| 優秀賞   | 「由布川峡谷」岡本芳生さん(大分県)     |
| 特別賞   | 「博多湾景色」長吉秀さん(福岡県)      |
| 特別賞   | 「金立公園の古墳と桜」丸山徳子さん(福岡県) |
| 特別賞   | 「長崎港の風景」鳥越英次郎さん(福岡県)   |
| 特別賞   | 「こんべぎの海」高山伊勢吉さん(福岡県)   |
| 特別賞   | 「氷華」田中務さん(福岡県)         |
| 特別賞   | 「水のカーテン」斉田英二さん(福岡県)    |
| 特別賞   | 「高千穂の雲海」大山義広さん(宮崎県)    |
| 道の駅賞  | 「実りの秋水に感謝」田中務さん(福岡県)   |
| 道の駅賞  | 「唄げんか大橋」田辺紀子さん(大分県)    |

第3回フォトコンテスト開催中!

第3回コンテストの対象は3月1日から2007年1月31

日までに投稿された全ての作品となります。ふるってご応募ください。詳しい投稿方法は「九州とるば」ホームページをご覧ください。



2月4日 日南海岸地域シーニックバイウェイ地域説明会(日南市)  
日南保険福祉総合センターを会場に38団体・個人約40人が参加して開催された。日南海岸活性化協議会会長、宮崎県、国土交通省宮崎河川国道事務所の説明を受けた参加者からは「串間に来てもらうには、まさにシーニックは嬉しい」「シーニックバイウェイは日南にピッタリだ」「団体でないとなかなか」等の意見が出た。質問時間が足りずに心残りの感もあつたが、皆共感して閉会した。



2月8日

阿蘇・くじゅう・やまなみシーニックバイウェイ学習会(阿蘇市)  
リゾートホテル阿蘇いこいの村(阿蘇市)を会場に、九州を横断するエリアである由布・竹田・小国・阿蘇・高千穂等の地域活動団体・個人、自治体



など約80人が

2月9日 日南海岸地域シーニックバイウェイ学習会(佐伯市)  
大分県マリナルカナルセンターを会場に、佐伯市や延岡市の日南海岸地域の地域活動者、自治体関係者ら約70人が参加して開かれた。参加者からは「地域として生き残って行くためには、押し付けられるのではなく、自分たちが何をしたいのか、あるいは後世に何を残すのかを考えなければならぬ」「地域文化を掘り起こし守っていくもの、建物、ゆかりの文化、道景色を大事にし、多くの観光客に来ていただくことがシーニックバイウェイでは」などの意見が出た。地元主体で昔からの「ゆかり文化」を守り育て、後世に残していきたいという熱意に会場は包まれていた。



参加して開かれた。参加者からは「ネーミングは日本語が良い」「様々な規制が生まれ逆効果にはならないのか?」という意見や、タイトなモデルルート公募期間、広域的なエリアでの連携や組織づくりに懸念する声も一部あつた。その一方で、シーニックバイウェイへの理解が深まり、推進する意義や今後の展開に期待するといった反響の大きさと関心の高さが見られた。

2月17日

玄海シーニックバイウェイ学習会(福岡市)  
福岡市唐津間をまたぐ玄海地域を対象にした「美しい道筋創出を生かした地域づくり(シーニックバイウェイ)学習会」が福岡市内で開かれ、福岡、佐賀地域から道守団体、行



政関係者ら約50名が参加した。

2月10日 日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会設立(宮崎市)  
日南地区の31団体と国、県、5市町からなる「日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会」の設立会議に、約60人が参加した。会長に選出された和田皓・日南海岸活性化協議会会長は「これは一つのスタート。継続的に活動、推進していくことが地域にとって重要」とあいさつ。今後の活動への決意と地域への想いを一つにした。併せて、協議会と連携する行政側の組織として「日南海岸地域シーニックバイウェイ行政連絡会(会長||宮崎河川国道事務所長)も設立。モデルルート指定への機運が一気に高まった。



協議会会長は「これは一つのスタート。継続的に活動、推進していくことが地域にとって重要」とあいさつ。今後の活動への決意と地域への想いを一つにした。併せて、協議会と連携する行政側の組織として「日南海岸地域シーニックバイウェイ行政連絡会(会長||宮崎河川国道事務所長)も設立。モデルルート指定への機運が一気に高まった。

2月27日

佐世保フォーラム(佐世保市)  
長崎県佐世保地区の明日を考える「佐世保フォーラム」の会合で、日本風景街道(シーニックバイウェイジャパン)の指定に、県北地区も名乗りを上げること



を決定した。長崎県北部には、九十九島などの自然や教会群などがあり、日本風景街道に活用できる素材が多くあることを確認した。

2月24日 玄海フォーラム(唐津市)  
佐賀県唐津市一帯のまちづくり戦略を考える「玄海フォーラム」の定例会がシーサイドホテルで開かれ、日本風景街道(シーニックバイウェイジャパン)に具体的に取り組むことを決めた。観光名所「虹の松原」をはじめ、海沿い、山沿いの小さな道にも注目して検討を進める。論議では「道路を新たな「コミュニティ」の場に」「多彩な資源を結びストーリーを構築しよう」の意見が出たほか、「唐津市にある七つの



離島は大切な資源。海のロードも含めた魅力を発信していこう」という提案もあつた。



# 「道守かごしま・くまもと・佐賀3県交流会」 地域間の道守連携深まる

道守会議の地域間の交流を深めようと鹿児島、熊本、佐賀各県の道守による「道守3県交流会」が1月13、14日の2日間、鹿児島市で開かれた。道守会員45人（道守かごしま会議26人、道守くまもと会議4人、道守佐賀会議12人、道守九州会議3人）や行政関係者らが一堂に会し、活動報告や意見交換を行った。



道守かごしま・くまもと・佐賀3県交流会

## 荒崎パーキングで花植え



桜島の南岳が一望できる荒崎パーキング（垂水市）で、道守活動の紹介と、道守かごしま会議と道守佐賀会議による花植え作業が行われた。フラワーポットは道守佐賀会議の会員による手作り。あいにくの雨で、近くの車庫を借りての協同作業となった。また、地元・鹿児島市のラジオ局による取材も行われた。

## 多彩な活動報告 議論弾む

荒崎パーキングでの作業終了後、鹿児島国道事務所では3県の活動紹介と意見交換会が行われた。佐賀会議は、道守体験事業や道守ふくおか会議との

## 道守佐賀会議が道守体験事業 “ひなまつり” 清掃

道守佐賀会議が2月18日、佐賀城下ひなまつりの開幕に合わせ、道守体験事業の一環として会場周辺の清掃活動を行った。2回目となる今年は、主婦やサラリーマンらボランティア約100人が参加。約1時間かけて、空き缶やタバコの吸い殻など軽トラック一台分を回収した。また終了後は、道守団体の牧瀬杏会によって、参加者へ甘酒やお菓子などが振る舞われた。



# 鹿児島&熊本&佐賀、大川&柳川： 地域をつなぐ道守交流、活動が盛んに

## 「道守大川ネットワーク」発足 柳川の道守と連携・協力

福岡県大川市内の道守団体が「道守大川ネットワーク」を発足。1月12日に第1回大川道守活動会議が行われた。筑後地域では柳川市に次いで2番目。

## 道守大川第1回会議に20団体

会議には、市民団体、教育機関、企業及び行政機関など20団体の代表ら37人が参加。道守九州会議の活動目的や設立趣旨等の説明が行われた。また、2004



年8月から道守活動を開始している「柳川道守ネットワーク」の活動状況の紹介もあり、道守活動についての活発な意見交換が行われた。世話人には大川市内の5つの団体が候補に上がっており、今後の会議で決定される予定。

## 大川・柳川の清掃参加950人

柳川市で第3回目となる道守清掃活動が2月25日、川下りコース沿いや柳川駅前などで行われた。21団体約600人が1時間程かけて、草取りや空き缶、空き瓶などのゴミ拾いに汗を流した。柳川市の伝統的なひな祭り「さげもんめぐり」（2月11日〜4月3日開催）に合わせたもの。テレビ局が取材に訪れるなど、道守活動の様子がお茶の間にも届けられた。



道守大川ネットワークによる第1回目の道守清掃活動が2月26日、大川市内で実施された。今年で24回目となる古賀政男記念



「大川音楽祭」（3月5日開催）に合わせ、市内をきれいにしようと企画したもの。保育園や老人会等の市民団体など29団体約350人が参加し、市役所前のいちよう通りや国道沿い、メロディーロード、中央公園などを共同で清掃した。

## 北陸・新潟で道守会議の勉強会 組織設立の機運高まる

北陸地方整備局の主催により、道守九州会議の活動と役割について勉強する講演会が1月20日、新潟市で行われ、北陸の行政関係者ら40名以上が参加した。道守九州会議を代表して、道守大分会議の亀野辰三副代表世話人（国立大分高専教授）が「道路美化活動の新たな展開と道守九州会議の役割」と題して講演。道守活動の実例を交えながら紹介した。講演終了後には熱心な意見交換が行われ、北陸地域での行政と住民の連携組織を立ち上げようという機運が高まった。



## もっとよく知ろう 道守研修会を実施

道守九州会議の活動趣旨等を再認識し、今後の活動方針等を学ぶ道守研修会が3月6、8日の3日間、九州地方整備局の九州技術事務所研修所で実施された。参加者は道守会員、行政職員ら15人。ボランティア活動をテーマに道守九州会議の榎木武代表世話人、道守大分会議の亀野辰三副代表世話人による講話、グループ討議などが行われた。参加者は道守に関わる幅広い年代の人と意見交換することで、手応えを感じた様子だった。





## 蓮の葉が広がる堀端、城跡の景色 都会の喧噪を忘れる福岡城址の道



お堀端の景色



大貝 知子  
プロフィール

(株)大貝環境計画研究所  
代表取締役社長(一級建築士)。  
九州大学博士(人間環境学)。



私が初めて道を意識したのは、幼稚園のころに住んでいた今泉一丁目(福岡市中央区)だろう。今泉は今でこそ若者の人気スポーツだが、当時はどこどこに馬糞が落ちていた狭い道で、紙芝居やボン菓子屋がやって来る私たちの格好の遊び場でもあった。通りは今でも残っており、狭き道の楽しさが凝縮した思い出の道である。

今、一番好きな道と言えば、福岡城址の舞鶴公園から赤坂へ通じる道だ。特に蓮の葉が広がる堀端では、ピンクや白い花が咲く頃は清々しい香りが漂う。歩道走る自転車やバイクが煩わしければ水際に降りるのも良い。巨大な鯉やアメンボを目にすることができ、都会の喧噪を忘れてしまう。

路線バスが六本松から護国神社の森を回り込んでこの道に入ると、急に車内が明るくなる。道には高い建物がないので、とにかく空が広くて明るい。濃い緑や城跡の景色が車窓に広がり、楠などの巨木達が圧倒的な存在感

を誇示している。暑い夏に木陰を広げる涼やかな姿も、雨に煙る姿も、雪化粧で白く変わった姿も、眺めると不思議な幸福感が湧き上がる。でも、緑が多く建物が少ない分、夜の一人歩きは避けた方が無難だろう。昨年の秋、福岡高等裁判所東の堀が赤土で埋め立てられたのには驚いたが、水鳥が運んで来た珍しい水草が大繁殖した結果なのだそう。鳥や自然がおりなすドラマも広がっている。

ただ唯一、桜の季節だけは赤坂に近い堀端は嫌いな道に変わる。2年前に、桜と柳の並木に替わって、暑苦しい濃いピンクの八重桜が植えられたからだ。桜に寄せる日本人の感性が欠如した人が決めたのだろうか。見るたびに怒りがこみあげる。道の景観を語る時、街路樹にもっと目を向けるべきだろう。建物や看板などは不思議と慣れても、緑や自然は常に人の意識に迫ってくるものだから。



## 私たちの道守活動

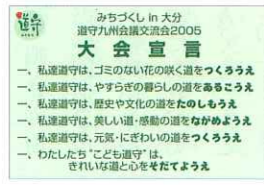
道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために九州各地の道守会員が取り組んでいる。スライドもアイデアもさまざまな活動を紹介します。

## 地域からの報告 大分編

### 「みちづくしin大分」開催や ギネス突破の14万人ゴミ拾い 大分の道守が「丸」に

道守大分会議(桑野和泉代表)は道守九州会議設立1カ月の2004年3月25日に設立。昨年は、8月の大分市内一斉清掃に多くの参加を呼びかけ、14万人のゴミ拾いでギネス記録を突破。10月の「みちづくしin大分」では大分の道守が一丸となるなど、チームワークの良さを発揮しています。そんな道守大分会議のお二人からです。

「みちづくし」大分から長崎へ活動が続くことが大切  
昨年の「みちづくしin大分」には、九州各地から世代を超え、多数の方々に集まっていたいただきました。活動を続けること、確認していくことの大切さを実感しています。特に子供たちの意見には感銘を受けました。私たちが大人として、その重さを受け止めていかなければなりません。大会宣言には、シンプルな言葉で大事にしなければならぬことを盛り込みました。続けなければ変わらぬ。私自身、大人としてやれることを続けていこうと思っています。



「みちづくしin大分」開催やギネス突破の14万人ゴミ拾い大分の道守が一丸に

今年「みちづくしin大分」すでに街自体が「さるく博」で盛り上がりつつあるように感じます。土地の特長を活かした長崎らしい交流会になることを祈念します。(道守大分会議代表世話人・桑野和泉)

まちづくり講演で道守を紹介聞き手との一体感が生まれた  
道守活動や道路美化活動の講演が続いている。北陸地方整備局(新潟市)に続き2月25日、別府市で講演を行った。テーマは「環境美化活動の新たな展開」。主催者は、大分県内の古いまちなみの保全活動を行う「まちなみとまちづくりを考える県民の会」(村松幸彦代表)。会場の「サロン岸」は、大分県内のまちづくりグループに知らない人はいないというほど有名な場である。

講演では「ボランティア・サポーター・プログラム」を通じて環境美化活動に住民や企業が積極的に乗り出してきた背景と全国の事例を紹介。道守九州会議の意義や役割、道守大分会議の活動事例、「別大国道マイツリー活動」の感動、「秘話」(この話を聞きたい方は私を講演と呼んでください)も話した。あつという間だったが、聞き手と話し手の間に一体感が生まれ、心地よい雰囲気での講演会となった。(道守大分会議副代表世話人・龜野辰三)



## 水族館「うみたまご」(大分)

### すばらしい景観の別大国道をいつもきれいに

私たちが活動を始めたのは平成16年1月。別府と大分間の6車線化拡幅工事に伴ったことでした。以後、毎月初旬に4〜5名で高崎山駐車場沿線を清掃しています。

平成16年4月には水族館「うみたまご」が新装オープン。西大分と水族館「うみたまご」の間は6車線に拡幅され、歩道もきれいに整備。散歩やジョギング、自転車で行く人の姿も多くなりました。現在、「うみたまご」と高崎山には観光客が増え、大分県を代表する観光地となっています。



今年2月の「別大毎日マラソン」の朝には「べつだいウォーク2006」が開催され、1000名以上の参加者が「うみたまご」〜「西大分」の間の道、往復10.5kmを歩きました。広い歩道は歩きやすく、別府湾から望む大分市方面の景色、折り返し地点で眺める別府の湯けむり、美しい海、山、そして国東半島のすばらしいこと!これからのきれいな道のために清掃活動を続けていきます。(津野 紀信)

### 姉子の浜の鳴き砂を守る会 (福岡)

## 全国的にも貴重な鳴き砂の海岸を みんなで守り後世へ渡そう



歩くとキョッキョと音がする、全国でも珍しい「姉子の浜の鳴き砂海岸」。この浜は国道202号線沿いの福岡県糸島郡二丈町鹿家にあり、実は一度鳴かなくなったこ

ともあるのです。再び鳴くようになった10年ほど前、この浜を後世に伝えようと地元住民によって守る会を結成。以来、町の文化財としての鳴き砂、そして美しい海岸線を守るために清掃活動を続けています。ちょうど今季節は多くのサーファーたちがこの浜を訪れ、ビーチクリーン活動を行ってくれています。また二丈パーキングの休憩所サンサンシーの中では、鳴き砂の音を楽しむこともできるんですよ。

次の課題は道路の安全対策。国道202号線とJR

筑肥線は並行し、トンネルやカーブも多く、交通量の急増で交通事故が多発しています。歩道の設置を進め、誰もが安心して歩ける道になればうれしいですね。

(檜和田 正子)



### 佐賀城編 (佐賀)

## 城跡の大通りに大鉢の花、 城下町をさらに鮮やかに

36万石の鍋島藩佐賀城跡が広がるのは佐賀市の中央。お濠に囲まれた城内には現在、県庁などの行政庁舎や美術館、博物館、小中高の学校もあり、人の往来も多い所です。この



城内を貫通する佐賀駅から佐賀空港に至る幹線道路が、私たちが守っている城内大通り。10年ほど前からボランティアで清掃や花づくりを行っています。毎年5月と11月には道路両側の歩道に設置した65個の大鉢に季節の花を植え、週に2〜3回の水やりと草むしりは欠かしたことはありません。

昨年は城内の景観を守るために建築物の高さや広告の大きさに地域規制がかけられました。地域住民の心がひとつになる中、県内だけでなく遠隔



地の方々から来城される観光客のみならずにも鮮やかな花と松の緑に囲まれた城内を楽しんでいたという、私たちが美観の維持にいつそう力を入れていきたいと思っています。(竹下 武志)

### R57 (ルート57) (熊本)

## 国道57号線に愛を！ 歌を通して地元をPR



私たちR57(ルート57)は「まちづくり系ロックバンド」。結成は2004年の11月、メンバーは熊本市帯山小学校区の小学4年生1人、中学1年生4人の女の子5人組です。地元を走る国道57号線にちなんで、このバンド名をつけました。持ち歌はいろいろありますが、バンドのイメージソングが「57号(ヒフティセブン)」。ずばり、国道57号を描写した歌です。



子ども道守隊に入るまでは、道について考える機会はほとんどありませんでしたが、改めて考えてみると「通学路って車と自転車と歩行者が入り乱れて歩きにくいな」とか「歩道があれば安全で楽なのに」とか、いろいろと気づくことがあります。



R57は今まで30回以上のライブをこなしてきました。これからも道の応援ソングなどにチャレンジして、みなさんに道への愛着心をもってもらい、道が身近なものであることをPRしていきたいと思っています。

(山崎 奈美)

### 日南市富士区(宮崎)

## シーニックバイウェイを 地域みんなで支え続ける



「日本一きれいな海水浴場」。そんなキャッチフレーズの富士海水浴場がある日南市の富士(ふと)区。近くには鶴戸神宮やサンメッセ日南など観光名所もたくさん。私たちは海岸や河川の清掃活動を通して地区の環境保全に努めています。また高齢者クラブや婦人会等の団体に呼びかけてボランティアを募り、各種公共施設の清掃も実施しています。

今年2月には国土交通省とボランティアサポータープログラムの契約を交わし、国道220号沿線の富士交差点近くに花壇をつくりました。当日は地区の方をはじめ駐在所の所員や国道道守ワークショップ日南部会も一緒に作業。信号で止まった車に「一緒に作業をせんね」と声をかけ、観光客からの労いの声に励まされながら、汗と笑いの中での作業となりました。今は海岸線沿いに色とりどりの草花が並んでいきます。一度ゆつくり走ってみませんか。(濱中 武紀・齋掛 孝)



### 宇都町老人クラブ千歳会 (長崎)

## 道に花を植え、育てて26年 三世交代で美しい町づくり



宇都町は国道207号や県・市道が交差する交通量の多い所です。この町に住む私たちは会員68名の老人会。昭和54年6月に旧建設省大村維持管理出張所から旧34号宇都町植樹帯を借り、草花の植栽や保全管理を始めて、もう26年になります。長期間の継続に驚くと同時に、私たちは道の美化に貢献しているのだと自負しています。

パンジーやキンセンカなどの苗を市からもらい、毎年6月と11月に花を植え、年に6回除草をしています。3年前から、地域の子どもや保護者とのふれあいを深めるために三世交代も開始。昨年11月の花植えには会員14名、子ども18名、保護者8名が参加しました。

各世代が教え合い、助け合いながら花を植えることは、本当に楽しい。これからは道の美化、植栽活動ばかりでなく、高齢者の視点から道づくりを考えたいと思います。(藤岡 光幸)



### 金峰町商工会 (鹿児島)

## 道の駅の掃除に取り組み 女性部員のパワーに感謝

鹿児島市内から車で約30分、超早場米「金峰コシヒカリ」で有名な田園地帯の中にある「道の駅・きんぼう木花館」は、人と自然にふれあう体験ステーション。霊峰金峰山をイメージした現代的な建物内にはそば打ち体験道場もあり、自分で打ったそばを食べることもできます。周辺には金峰山や日本三大砂丘のひとつである吹上浜、温泉センターなど見所も多く、行楽客も立ち寄る人気のスポットです。



毎年6月10日の「商工会の日」には、早朝からこの道の駅と周辺の国道270号線をわれら金峰町商工会の女性部員が掃除をしています。この他、年に数回は商工会全体でも掃除に取り組んでいます。その時にも女性部員たちは率先して活躍してくれました。平成17年11月7日、金峰町は市町村合併で南さつま市になりましたが、部員一丸となってこれまでに以上に環境美化運動にがんばってまいります。(若崎 洋治)





かつて日本各地に凱旋門があった。明治時代、日清・日露戦争後に作られた。現在、残っているのは二門。鹿児島県始良町下名のアーチ式本格石造りの「山田の凱旋門」と、静岡市引佐町に残るアーチ型レンガ造りの「渋川の凱旋門」である。

「山田の凱旋門」の建設は100年前。日露戦争が終わった翌年の明治39年（1906年）3月、旧山田村（現始良町）の出征兵士の帰還を出迎えた。高さ3・94m、幅4・88m。パリのエトワール凱旋門のミニチュアを思わせる美しい姿だ。が、実は長い間忘れられたのかの様にひっそりと佇んでいた。同じ町内の白金酒造石蔵とともに国指定登録有形文化財になったのは平成13年（2001年）。昨年、300万円をかけて初めて全面修復された。

### 100年の風雪を耐え、文化財として蘇る

## 山田の凱旋門

鹿児島県始良町

凱旋門再評価の機運のなかで昨年の小学校運動会では緑門が復活

旧山田村は小石垣が多かった

下鶴 弘さん  
始良町歴史民俗資料館学芸員

唯一補強された門上部のワイヤー

### 全国に二つだけ残る凱旋門、地元の伝統技術を活かし唯一の石造り

凱旋門が取り壊されると聞き、慌てて見に行った話を残している。木造門は昭和20年（1945年）の第2次大戦終戦時までに姿を消した。

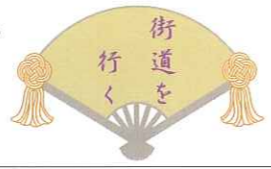
「山田の凱旋門」には「地元の石工技術と伝統が生きている。デザインには当時の進取の精神が宿る」と始良町歴史民俗資料館学芸員の下鶴弘さん（町教委主幹）は解説する。保存や文化財登録、改修に尽力した。改修は、積み石の隙間を埋め、アーチ部の支え部分内部の金属補強と門上部の両門柱ワイヤー接続補強だけで、表面の汚れや苔を取り除くと新造門のようになり、美しく蘇ったという。

積み石の素材は近くの池平から切り出された凝灰岩。石工は近郷の「細山ケサグマ」と伝えられる以外、建造技術にまつわるデータは何も残っていない。町村合併や水害で資料が散逸したという。

伝統であり、誇りでもある石建造物が長く忘れられた。とりわけ戦後は長く放置された。なぜか。「凱旋門」、つまり戦争関連遺跡だからである。元郵便局長がこんなエピソードを披露してくれた。「凱旋門の図柄を消印にと申請したら、外国から何と言われるか、と許可されなかった」。凱旋門前の伝統行事であった秋の十五夜綱打ち（大綱引き）も昭和30年代になくなった。藁を集め、綱をなう子供たちがいなくなったためだった。

再評価の機運は平成になってから。地元資料館が牽引者になった。今年3月11日、建立百周年式が現地で行われた。出席者は地元住民を中心に約150人。ささやかではあったが、十五夜綱打ちや門登り遊びなどの思い出を語り、地元だけで手に入る地場焼酎「凱旋門」を酌み交わし、「看板を立て、ちゃんと子供たちに伝えよう」と語り合った。（滝平 道郎）

## 歴史を学び 道を守る



### 去り往還・日向の国の薩摩街道

宮崎市高岡町



和石の里から望む薩摩街道。道は山中を走る

### 日向の道は5街道53往還

郷土史の数ほど道の名は多様

「ひむか神話街道」は平成15年夏に決まった新しい広域観光ルートである。宮崎県北の高千穂町から九州山地の背を通り、日南海岸に出たあと再び山に向かい高千穂峰の麓・高原町まで14市町村を結ぶ。天孫降臨神話や海幸彦・山幸彦神話、平家落人や百済王伝説、神楽、遺跡など日本の歴史の始まりを刻むものが多い。一体、日向街道自体はどこ？ 起点・終点は？ 日向街道を歩こうと「みやざき歴史の道を行く」の

著者・徳永孝  
一さん（宮崎県立図書館研究員）を訪ねた。

「正確には日向の街道ですね。道の名前は、薩摩街道とか目的地で呼ばれたから日向街道は宮崎にはない」と徳永さん。確かに日向街道の名称は熊本にはあり、熊本城を起点とし、泉境の矢部へ向かう古道だが日向に入れば「須木往還」である。

徳永孝一さん

### 集落ぐるみで街道を歩く里

「日向の歴史は古く、道の名前は郷土史の数ほどある」「日向は分割支配の地だったから道の中心は幹線型の街道ではなく、比較的短い領内の数多くの往還でした」。徳永さんは明治初期にまとめられた大著「日向地誌」を精査し、現地を訪ね、近世日

向の道は「5街道53往還だった」と結論付けた。

「日向の往還の起点は険しいのが特徴」という。その特徴を今に伝えるのが去川往還、土地の人は薩摩街道と呼ぶ。起点は山深い去川関。幕府を密使をすんなり通し薩摩藩士が密かに追尾という暗闘の道でもあった。起点の険しさは自衛手段でもあった。

集落戸数40の里村・和石II宮崎市高岡町IIの前田律雄さん（58）千鳥さん（55）夫妻に現地を案内してもらった。

和石の人々は集落ぐるみで「薩摩街道を歩こう会」をもう10年も続けている。昔は参勤交代も通った。「私たちも道の街道と呼ぶにはあまりに狭い山道。歴史は知らなかった。徳永先生に教わって、そんな大事な道かいと、集落の忘年会代わりで歩き始めたんです」と前田さん。確かに街道への取り

### 道が生んだ言葉が「他生の縁」

付け道は険しいが、上り詰めれば後は比較的平坦な照葉樹林の尾根道。木々は風を止め、木漏れ陽が暖かい。コブ付きのイヌマキや大きなスダジイなどがあつて目印になる。「樹齢は2〜300年くらい」と前田さん。営林署勤務だけに木々に詳しい。

道の歴史と植物の知識の出会いが「歩こう会」になって、人伝えて広がって今では毎年外から150人くらいが参加する。集落の女性陣はソバを打ち参加者も耕す夫妻。ゆったりとした説明や笑顔に心ななむ。袖振り合うも他生の縁という言葉は道から生まれたのだ、きつと。

歩こう会は地元ぐるみでお世話



ご存知  
ですか？

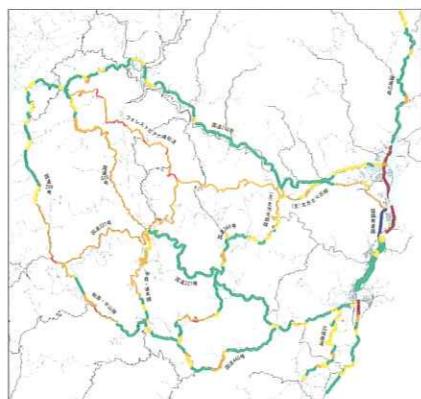
## 道路の走りやすさマップ

# 九州全域 (H18.3月版) データ無償提供を開始



走りやすさマップデータ 走りやすさマップ九州全域 (H18. 3月版) の地図データ (イラストレータ形式)

道路の「走りやすさ」にランクをつけて色分けした「道路の走りやすさマップ」。この度、「九州全域 (H18.3月版)」データの無償提供を3月1日より開始しました。



走りやすさマップ  
評価図データ  
走りやすさの評価ランク、  
車線を整理した地図データ  
(DXF形式)

### アンケートで約9割が「良い」と評価

昨年10月より、道路の走りやすさマップ「九州全域」を配布し、アンケート調査を行いました。約2200通の回答があり、約9割が取り組みについて「良い」と評価。約8割が走りやすさの分類について「概ね妥当」と評価しました。観光関係機関、地図会社、カーナビ会社、その他マップに興味を持たれた方は、ぜひお問い合わせください。

問い合わせ先 国土交通省 九州地方整備局 道路計画第二課 TEL:092-473-6331(代表) 092-476-3530(直通)  
国土交通省 九州幹線道路調査事務所 調査課 TEL:092-672-7311

● 道路についてのご意見・ご提案・ご相談を受け付けています ●

九州地方整備局「道の相談室」 ☎0120-106-497 FAX092-476-3514

● E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp ● HP http://www.qsr.mlit.go.jp

### 全国版も作成、道づくりに活用

今後はデータ提供の活用方法・実績などを参考にし、全国版に活かしていく予定です。また、このデータを活用して利用者の視点に立った道づくりを進めていきます。

- 走りやすさマップについて詳しくは下記HPをご覧ください。  
きゅうかんウェブ <http://www.qsr.mlit.go.jp/kyukan/>
- データの著作権は九州地方整備局が有しています。詳細は問い合わせください。

## お知らせ 道守九州会議交流会の声をアクションプログラムに！

九州地方整備局では「みちづくしin大分 道守九州会議交流会2005」(昨年10月6・7日/別府市にて開催)で出された道守の皆様からの多くの意見や課題に対し、具体的対処を図るためアクションプログラムを計画しました。

「花や植栽育成管理での水の確保に苦労している」

水道を各県下で試行的に整備し、今後の協働運営のあり方などを検討していく。

「歩行者等にとって危険な道もまだまだ多く、安全な歩きやすい道の情報なども必要」

観光地など外来者の多い地域で、歩行者の視点に立ったマップを試行的に作成し利用者の評価などを検証する。

「大人がルールを守らない、タバコや空缶は捨ててもくならない」

供給企業などとも連携したマナーアップ活動などを働きかけていく。

これらのほか、どこもアスファルト化された舗装、標識類のあり方、子供と大人の交流活動や学習の大事さ、地域の道の不便さが中央の人々に理解されない苦しみなど、活動での多くの問題意識や暮らしの中からの意見などが寄せられました。アクションプログラムは、これらの多くの意見や課題に対する行動計画としてまとめられたもので、道守会議とも連携しつつ、できるものから直ちに実践いただく予定です。行政の素早い対応に道守会議役員も感激と同時に民と行政の協働の大事さを改めて感じています。(道守九州会議事務局)



自転車「先進地」ハノーバー市  
全長530キロの専用道 無料駐輪施設は5000カ所

## ドイツ



ロータリーには自転車専用レーンがある。自転車、車、人の徹底的な分離こそドイツの都市交通の要だ



岩田 直仁 氏

西日本新聞地域報道センター 一部次長。鹿児島総局、社会部、北九州支社、文化部を経て2005年から現職。

「グーテン・モルゲン！」。早朝、ホテルの周囲を散歩していると、自転車に乗った若い女性からあいさつされた。なぜか、しかも「面、怒鳴り声で...」  
昨年、視察で訪ねたドイツ・ハノーバー市での出来事。実は、歩道と思いついて散歩していた道は「自転車道」。「おはよう」には「どこ歩いてるんだよ！」という叱責が含まれていたわけだ。都市圏交通体系に積極的に自転車を生かしている国、ドイツ。ハノーバーはその先進市の一つという。  
市庁舎を訪ね、自転車交通担当のジューグマー・ズーレイさんに話を聞いた。同市が自転車道の活用に取り出したのは1970年代。当時、都心部への自動車流入量の増加に伴い、渋滞、排ガス・騒音公害が深刻化していた。79年に「自転車道プラン」を策定。これまでに全長約530キロの自転車道を網の目状に整備、さらに160キロ延ばす計画という。主要駅に300台以上収容の大駐輪場。ほかに、鉄棒に自転車を自前の鍵でつなぐだけの簡易無料駐輪場が約500カ所ある。素晴らしい自転車利用環境だ。  
さて、振り返って日本。まず、こうした簡易駐輪場をもっと増やしてはどうか。そして、幅が広い歩道の一部や車道の路肩にとりあえず「自転車道」を設ける。いずれも低予算でできるはずだ。そこから本格的に都市圏交通に自転車を活用する施策に取り組みたい。  
夕暮れ時、自転車通勤をしているガイド兼通訳のフーマン・モナさんと別れた。「チユース(さよなら)」。が、なぜか自転車に乗ろうしないモナさんの視線を追うと、何と「歩行者用」、「車用」とは別に自転車の信号があった。もちろん赤！ 車・自転車・人の交通分離の徹底に、改めて「さすがドイツ」とうなづけてしまった。



交差点には自転車専用の信号がある

自転車専用道には右折レーンもある



ドイツ各地には、その土地独特のユニークなデザインの簡易駐輪場があちこちに。無料で手軽に利用できる



**留学生が町歩き報告** 九州女子大の留学生によるまちづくりの報告会が2月16日に行われた。北九州市折尾地区を住民の案内で歩き、発表資料を作成。「街灯が少なく、お年寄りや子どもは危ない」「狭い道路もあるが、歴史がある。壊したら歴史も壊れる」などの意見が出た。

**佐賀市で「歩行天」** 参加型イベント「歩行天」が、佐賀城下ひなまつりに合わせ、3月末までの毎週日曜日に実施された。車の通行を規制し、カフェやコンサートなどを展開する国交省の道路活用社会実験の一環。サガン鳥栖の選手がサイン会を開くなど盛り上げた。**青年グループが桜100本植樹** 長崎県平戸市栄の原町の「一八会」が2月19日、市道約3kmにソメイヨシノなど桜の木100本を植樹した。植栽前の3日間は、メンバー18人が草刈りなどで周囲を清掃。「空き缶のポイ捨てもきつと減らしましょう」。

**完成前の道路でお絵かき** 佐賀県伊万里市の牧島小学校の児童たちが2月10日、完成間近の伊万里湾大橋と国道204号とを結ぶ臨港道路の拡幅工事現場の路面で絵を描いた。国土交通省唐津港湾事務所が招待したもの。「大きくて難しい」と言いながら、アニメのキャラクターなどを懸命に描いた。

「夕顔が咲くまでに帰ってきてね」そんな願いを込めて新小学一年生に夕顔の種を贈る「夕顔運動」の準備作業が2月18日、福岡市博多区博多駅前前の保ジャパソフ福岡ビルで行われた。同社員と市民40人が市内の新年生約1万5千人分に贈る種を袋に詰めた。

**五名市の建設業者がハゼ120本手入** 熊本県五名市の建設業者6社から約20人が集まり、1月27日に菊池川堤防沿い約3kmのハゼ並木を手入れた。生い茂ったツタが取り除かれ、すっきりとした並木がよみがえった。**青空へ風船飛ばし、ごみ拾い** 黄色い風船を飛ばし、回収する際にごみを拾う。福岡市天神で2月4日、若者15人による一風変わった清掃活動「トツナナ」が行われた。プロ野球で7回裏にファンが風船を飛ばすことからヒントを得たもの。「参加者の数だけ街がきれいになります」と主催者の大学生。

**飯塚高3年生180人が地元清掃** 福岡県飯塚市の飯塚高校3年生が1月13日、約1時間にわたり新飯塚駅付近や新飯塚商店街の清掃活動を行った。「いつもお世話になっている人たちへの感謝を込めて地域に貢献しよう」と生徒会が中心になって実施したもの。**バレークラブが集合場所を清掃** 大分県珠珠町の小学生バレークラブ「和楽路ブルースカイズ」のメンバー27人が1月9日、珠珠インター近くの「珠珠町インター入口駐車場」を清掃した。同駐車場はクラブ遠征

時の集場所。一列に並んで小さなごみも丹念に拾うなど、チームワークを発揮した。**公用車で防犯パトロール** 福岡県稲葉町が、業務車両を使った防犯パトロール活動を始めた。黄色いステッカーを車両50台分作製。公用車やごみ収集車、郵便配達車両などに張り、町内を走ることで、凶悪事件から子どもたちを守ろうというもの。3月の嘉麻市合併

後も継続中。**スギ看板で温泉地に統一感** 大分の天ヶ瀬温泉旅館組合が日産のスギ板を使い、泉質や温度、効能などを表示する看板を約20個製作。旅館の玄関などに設置した。統一感ある景観をつくらうと企画したもの。看板は組合員らの手作り。文字は地元の書道家が担当。「看板でしっかりPRしたい」。

**古里の道から 満開の桜見あげたい**

「歩行者天国のようでした。黒木町のまちおこし団体「起源会」会長の服部良一さんは懐かしむ。1960年代、国鉄矢部線が健在だったころ、終着地の黒木駅と周辺の商店街は活気に満ちていた。店街は活気に満ちていて、仲間と物産山を見あげる人の心にも、花が咲く。」

20代の頃、矢部線廃止ですたれた「大藤まつり」を始める。今では毎年5月、10万人もの見物客が押し寄せる市を始め、今年9月、約50人で「起源会」を発足。町中心部の城山(標高240m)に毎年数100本の桜植樹を計画している。町も全面支援を約束。1月には新成人の桜植樹も企画した。「山がピンクに染まる日が楽しみ。まるで『花咲かじいさん』の気分」。

服部良一さん(47歳) 福岡県八女郡黒木町

あなたも九州の道を考え、守ってみませんか？

道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。

広げよう道守の輪

九州各地の多くの方が道を舞台に活動を日々繰り返しています。地道でひたむきな活動ですが、地域の仲間、学校の友達、会社の同僚、市民団体、個人の活動などが、地域に共感と感動を与えています。



花々が彩り、街をひとつの公園に 橋通フラワーロード推進協議会(宮崎市)

道守活動の例

道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所の点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング(監視・通報)、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など



花いっぱい道で校区を彩る 八嘉校区まちづくり委員会(熊本県玉名市)



毎月、店舗の周辺一帯を清掃 イオン九州株式会社(大分県)



道守九州会議 会員募集中!

道守九州会議では、会員の募集を行っております。さまざまな道守活動を行っている皆様にご登録いただくと、道守情報・交流ネットワークにご参加できます。入会については道守九州会議、または九州7県の道守会議へお問い合わせ・お申し込みください。※賛助会員(会費あり)の募集も行っています。詳しくはお問い合わせください。

入会申し込み 問い合わせ

(社)九州地方計画協会内 「道守九州会議」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号 TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533 (ホームページも参照ください。申し込みも可能です)

■道守HP <http://www.michimori.com> ■e-mail [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

「道守通信」 編集後記

春がやってきました。由布院では、野焼きのあとの山々が少しずつ緑色になってきて、黄スミレの季節ももうすぐ、自然の力の大きさを感じます。今月はシーニックハイウェイの特集です。九州の自然の美しさはもとより、人と人との出会いがうまれることのすばらしさを改めて感じています。(編集委員・桑野和泉=玉の湯代表取締役社長)

「道守九州会議」からのお知らせ

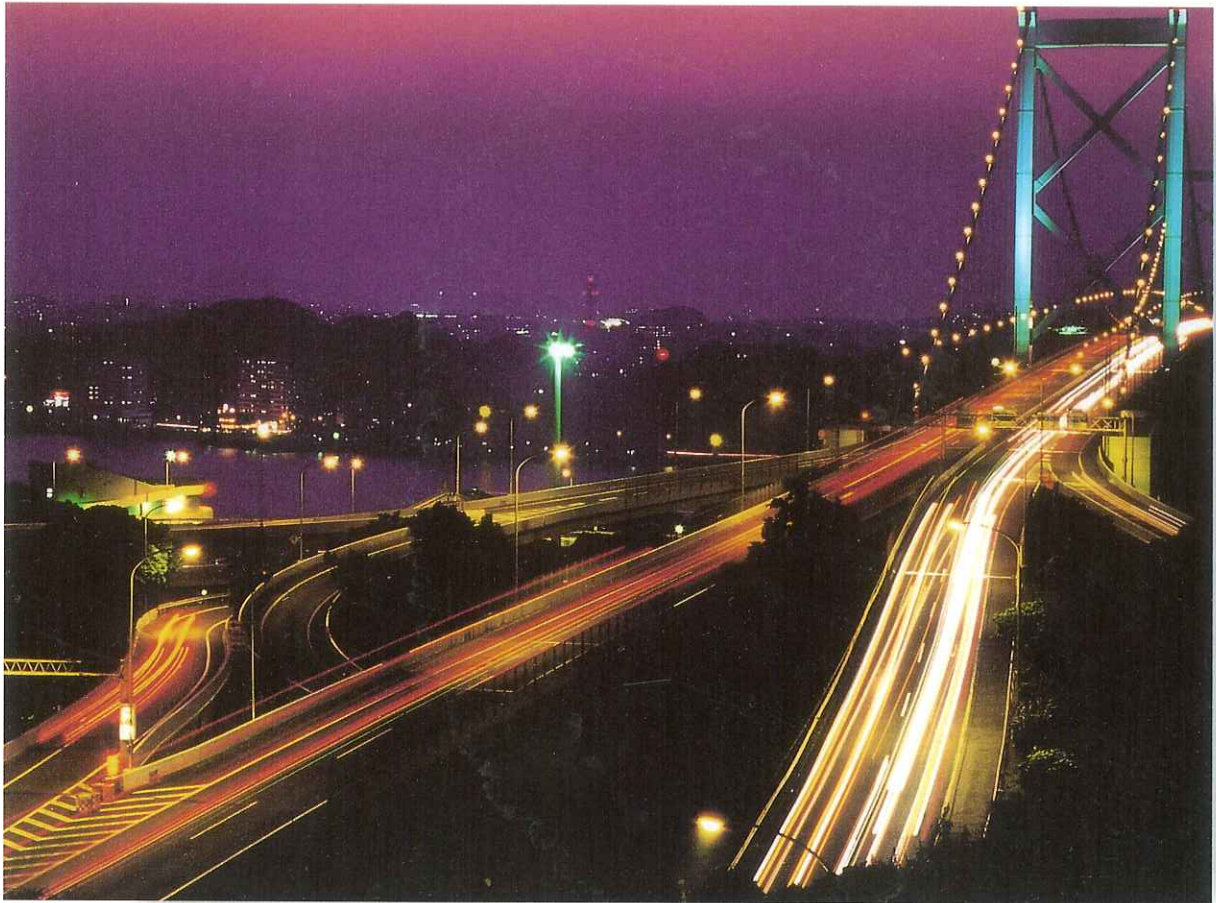


**道守九州会議 交流会2006 「みちつくしin長崎」開催**  
10月27日(金) 28日(土)の2日間、長崎市にて道守九州会議交流会「みちつくしin長崎」を開催します。詳細については、今後、実行委員会にて企画を作っていきます。(ホームページ、道守通信等で順次お知らせします)

**とるば(フォトスポット&パーキング) 全国展開がスタート!**  
国土交通省九州地方整備局と連携し九州で開発した「とるば」。2006年度から国土交通省の施策として

**第3回フォトコンテスト開催中!**  
地域の魅力をご投稿ください。現在、第3回とるばフォトコンテストを開催しています。対象は2007年1月31日までに投稿された全ての作品となります。ふるってご応募ください。詳しい投稿方法は「九州とるば」ホームページ(<http://www.torupa.com/>)をご覧ください。

全国展開をスタートしました。詳しくは本誌5ページ、「とるば」総合サイト(<http://torupa.jp>)をご覧ください。



「とるば」第1回フォトコンテスト  
特別賞【光るハイウェイ】外尾 英介氏（北九州市）

 福岡県北九州市門司区  
源平合戦の壁画前駐車場(第2展望台駐車場)から

【この作品は空の色を出すのに苦勞しました。  
できればもう少し空を赤くしたかったのですが…。(外尾氏)】



広報誌「道守通信」春号  
平成18年3月27日発行

■発行「道守九州会議」  
■事務局（社）九州地方計画協会内  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533  
●「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>  
● e-mailアドレス michimori@michimori.com  
定価 300円（消費税を含む）